

男子第一部

準決勝戦第1試合

準決勝戦第1試合は、連勝街道を突き進む旭化成Aと旭化成の記録更新に大きく立ちはだかり、王座奪還に執念を燃やす新日本製鐵との戦い。勝負は、事実上の決勝戦と目されるに相応しく、代表戦までもつれ込む手に汗を握る接戦となった。

先鋒戦。

共に右組みながら体重差50kg近い両者の戦い。齋藤は巨漢大鋸に対し、ひるまず、臆さず堂々と立ち向かう。大鋸も先制点を上げるべく勝機を窺うも、共に決定打を欠き引分。

次鋒戦。

垣田右組み、川端左組み、共に激しく動いて攻め合うも、共に決め手無く引き分ける。

中堅戦。

共に全日本実業個人選手権90kg級のチャンピオン。昨年の全日本実業個人選手権大会決勝戦の再現。長身の増淵は右引手不十分ながら、左釣手で吉永の奥襟を押さえ、得意の内股を連発する。増淵の攻撃パターンを熟知した吉永は低い姿勢でこれを防ぎつつ、得意の寝技に入ろうと機会を窺う。増淵は終始激しく攻めるが、引手不十分のため攻撃は徒労に帰し、一方の吉永も同様、左引手を離しての攻撃のため、技の効果は不十分。終盤、増淵は吉永の左一本背負投から小内刈を潰して、場外付近で伏せた吉永を寝技で攻めるが、あと一步というところでブザーが響き引分け。

副将戦。

50kg近い体重差のベテラン同士の副将戦。序盤、歴戦の古強者の塘内は右組みから堂々と組み、森田は右引手を離しての内股を仕掛ける。両者互角に渡り合うも、徐々に体格の優る森田が押し気味となり、塘内は後ろに退く場面が多くなる。こうして迎えた残り1分、塘内が左に移動しながら右小内刈に入ると、森田は素早く左出足払で反応すれば、塘内はたまらず尻から仰向けに倒れて有効。直後に上に押し掛かった森田は、巧みに伏せた塘内を裏返して縦四方固で押さえ込む。25秒経過し3分34秒ブザー。新日本製鐵が貴重な1点を

確保。

大将戦。

ここで何としても一本勝でタイに持ち込みたい西潟は、開始早々より長身を利して左組みから奥襟を狙う。武田はこれを嫌い巧みに捌く。こうして迎えた1分27秒、武田は右自然体から意表を衝いて左の低い一本背負投に入ると西潟の巨体がごろりと転がって有効となる。ところが、武田の背中に付いた西潟は素早く体勢を立て直して寝技で攻め、うまく横四方固に固める。これががっちり決まり、武田、如何ともなしがたく時間。伝統の一戦は代表戦へ。

代表戦。

代表選は、先鋒戦の再現。開始30秒、大鋸が齋藤の一瞬の隙を衝き、豪快な右内股一本で、勝負はあっけなく決す。惜しくも新日本製鐵は今年も苦杯をなめる。

旭化成 A	代	-	1	新日本製鐵
(先鋒)大鋸 新	5 段	引分		齋藤 俊 3 段
(次鋒)垣田 恭平	3 段	引分		川端 恭平 3 段
(中堅)増淵 樹	4 段	引分		吉永 慎也 4 段
(副将)塘内 将彦	5 段	縦四方固		森田 祥一 4 段
(大将)西潟 健太	4 段	横四方固		武田 茂之 3 段
(代表)大鋸 新	5 段	内股		齋藤 俊 3 段

準決勝戦第2試合

準決勝戦第2試合は、4年連続決勝戦進出を目指すダイコロ対選手層の厚さを誇る旭化成のBチームの対戦。共に初戦圧勝で決勝戦への切符を競う。

先鋒戦。

超重量級の佐々田に軽重量級の田中、左組み同士の対戦。序盤、40kg差の田中は容易に組ませず、組み止められると巴投、隅落を仕掛け、これをほどく。1分43秒には攻めのない田中に指導1。こうした展開の中、2分過ぎ勢い込

む佐々田に、田中は下がりながら一瞬の虚を衝いて後ろに倒れ、両足で佐々田の腹部を跳ね上げて頭の上で回すと、佐々田の巨体が大きく回って、巴投一本。旭化成 A が先制点を上げる。

次鋒戦。

開始早々、野田は前に引き倒し、伏せた稲葉を巧みに回して崩縦四方固に押さえ込む。稲葉は 12 秒で懸命に振りほどき危地を脱す。その後も野田はパワーで稲葉を振り回し、稲葉がこれをおかす展開が続く。2分30秒には、守勢の稲葉に指導 1 が与えられるが、終盤になって稲葉が攻撃に転じ、そのまま時間。

中堅戦。

73kg 級の吉蘭は、90kg 級の西田に絶えず圧力を掛けられ、後ろに回り込む場面が続く、41秒指導 1、1分15秒指導 2、2分10秒指導 3 と続けて指導を受ける。猶も圧力を掛け続ける西田の前に為すすべなく、遂に残り 10 秒に指導を受け、見せ場を作れず悔しい反則負けを喫す。

副将戦。

共に右組み、天理大学の先輩、後輩の両者は、組手に拘り容易に組み合わず、1分50秒、やや守勢が続いた谷本に指導 1。その後も両者の組手の拘りが続き、時折、互いに大外刈を散発するが有効打にならず引分。この時点で旭化成 B の勝利が確定し、ダイコロは 4 年連続決勝戦進出ならず、涙を飲む。

大将戦。

共に大型選手同士の対戦。右組みの両者、木村がパワーで合田を翻弄し、場外を背負う合田に 1分50秒、2分12秒、3分5秒と続けて指導が与えられる。指導 3 を奪った直後、木村は押し込みながら、両手で合田の右前襟を掴み、得意の大外刈で合田の長い足を強く刈り込めば、合田はたまらず横倒しから大きく背中を着く。木村の豪快な一本。

ダイコロ 0 - 3 旭化成 B

(先鋒) 佐々田 裕良 3 段	巴投	田中 貴大 3 段
(次鋒) 稲葉 将太 3 段	引分	野田 嘉明 3 段
(中堅) 吉蘭 勇太 3 段	反則勝	西田 泰悟 3 段
(副将) 谷本 義人 3 段	引分	出口 雄樹 3 段
(大将) 合田 良太 3 段	大外刈	木村 純 3 段

決勝戦

男子第1部の決勝戦は、5年ぶり3度目の旭化成同士の対戦となった。A・Bいずれのチームが優勝しても旭化成の13連覇、29度目の優勝が確定。

先鋒戦。

左右のケンカ組手。増淵は右の引手を奪えず、得意の内股も散發。2分24秒、引手不十分のまま掛けた自身3発目の内股を、これを待ち構えていた出口が右足で増淵の右踵を刈って一本を奪う。

次鋒戦。

同じ身長だが81kg級と2階級下の垣田が開始24秒、左組みから右巴投で技ありを奪う。その後、攻撃の止んだ垣田は3分22秒指導1を受けるが、それ以上は、野田が攻め手を見いだせず時間。

中堅戦。

左組みの谷口は体重差、実に約50kgの木村に対し引手を許さずクレバーな試合運びを見せる。1分5秒に指導1を受けるが、その後も巧みにさばいて引分かと思わせる。ところが、終盤になって疲労し、木村十分の右組手を許す。残り25秒、木村の右内股にたまらず横転し、一本。

副将戦。

左組手の両者、攻める長身西潟の攻勢を西田は引手を許さず、十分に組ませぬまま時間を浪費させる。西潟の攻撃も残り3秒の指導1を奪うのみ。結局、西潟は西田を捉えられず、痛い引分で旭化成Bの優勝を許す。

大将戦。

約60kg差の両者の対戦。小兵の海老は大鋸に果敢に挑み、1分丁度到大鋸に指導1。しかし、徐々に地力差が出始め、守勢に回った海老は1分30秒場外に出て指導1を受ける。2分6秒には、海老は大鋸の圧力から場外際で苦し紛れに掛けた左背負投を潰されて技あり。そのまま縦四方固に押さえられるがすぐ「参った」となって、大鋸が2分10秒で一本勝。

旭化成A

2

-

旭化成B

(先鋒)	増淵 樹	4段		内股返	出口 雄樹	3段
(次鋒)	垣田 恭平	3段	⊖	優勢勝	野田 嘉明	3段
(中堅)	谷口 徹	3段		内股	木村 純	3段
(副将)	西潟 健太	4段		引分	西田 泰悟	3段
(大将)	大鋸 新	5段		縦四方固	海老 泰博	3段